



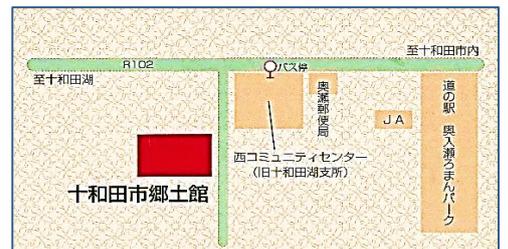
令和4年

9/17(土) - 11/20(日)

午前9時～午後5時※月曜日休館
観覧料 無料

十和田市郷土館

十和田市大字奥瀬字中平61-8
☎ 0176-72-2340



東北新幹線「七戸十和田駅」・「八戸駅」から十和田観光電鉄バス乗車「十和田市中央」下車、焼山行き「西コミュニティセンター前」下車、徒歩1分

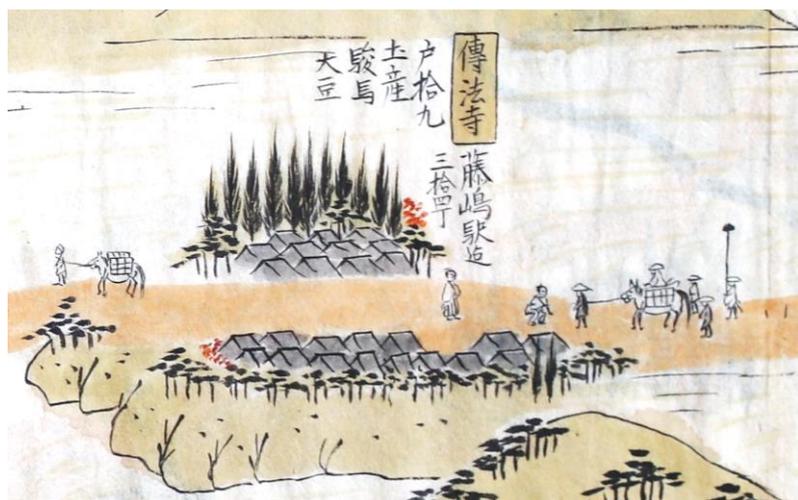
はじめに

「奥州街道」は、現在の国道 4 号のもととなった道です。江戸を起点に宇都宮、白河へと続き、さらに北進して、仙台、盛岡、青森にまで達していました。この道路が整備されたことで、当地域にも、たくさんの人や物資が通行するようになり、南部藩の藩庁であった盛岡をはじめ、江戸や日本全国へとつながっていくようになります。この展示会では、「奥州街道」をテーマに、当時の街道の様子や街道を歩き交う旅人や物資の状況、当地域との関わりを古絵図や古文書を通して紹介いたします。

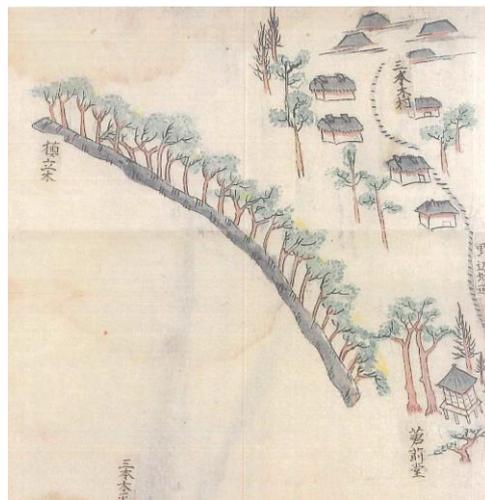
① 奥州街道の整備

盛岡藩領の奥州街道整備は幕府による慶長 9 (1604) 年の一里塚築造命令により始まったとされます。承応 2 (1653) 年には盛岡から野辺地までの街道沿いに一里塚が整備され、塚上には松や槻 (つき) が植えられました。

街道には人馬の継立をおこなう宿駅が整備されたほか、人や物資を監視する番所や、旅人が歩行しやすいよう並木や橋などが整備されました。



「伝法寺駅」 御領内鬼柳より田名部迄道中絵図



「三本木の植立木」 奥瀬領諸村塚絵図(個人蔵)

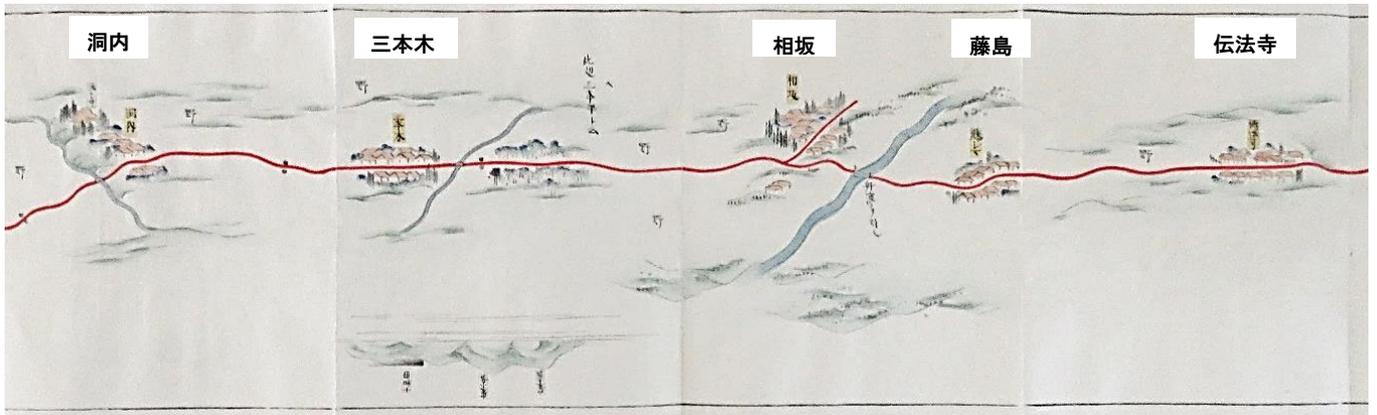
② 市内の奥州街道

市内の江戸時代の奥州街道の様子については「北奥道中図」などの絵図で伺い知ることができます。ルートは南から一本松⇒伝法寺⇒藤島⇒相坂⇒十和田市中心市街地⇒洞内⇒池ノ平で、国道 4 号バイパス整備前の陸羽街道とよばれたルートにほぼ一致しています。伝法寺と藤島には宿駅があり、人馬の継立を半月交代で行なっていました。



一里塚(真登地)

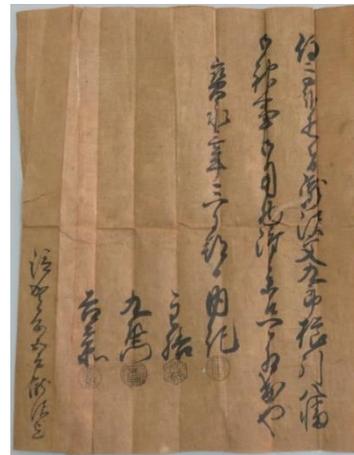
奥入瀬川には橋がなく、船による渡しでした。また、市内には「伝法寺」「真登地」「池ノ平」などに一里塚があり、現在でもその姿を見ることができます。



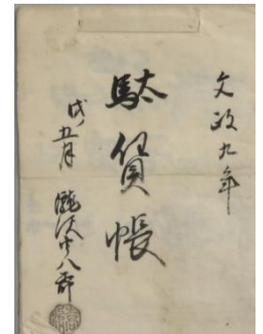
北奥道中図

③ 伝馬（てんま）制度

江戸時代の街道輸送に特徴的な制度として伝馬制度があります。伝馬とは幕府や藩が、街道の宿駅に継所を置くとともに、人馬を常備し、荷物や旅客の輸送にあたらせたものです。伝馬はリレー方式で、隣の宿駅に到着すると、馬と人足を交代し、つないでいきます。公用での通行の場合は、伝馬証文が発給され、これを証明書として無料で制度を使用できました。しかし私用等の場合は有料で、その駄賃は公的に定められており、輸送方法により区別がありました。このコーナーでは、市内滝沢地区に居住していた給人（在地の武士）・滝沢氏が残した古文書から、伝馬制度をみていきます。



伝馬証文
(滝沢家文書)



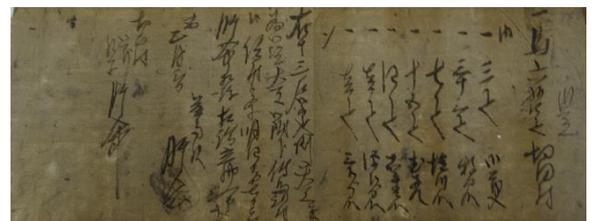
駄賃帳
(滝沢家文書)

④ 伝馬制度を支えた村々

伝馬に必要な馬や人足は、宿駅の村が常備しましたが、通行量の増加等により宿駅の村だけでは賄えない時は、近隣の村々が馬や人足を負担することになっていました。市内にあった藤島駅では、沢田、切田、三本木、洞内のほか、現在の六戸町、おいらせ町などの遠方の村からも加勢を受けています。江戸時代も後半になると、奥州街道は蝦夷地警備の役人・荷物の往来のほか、盛岡藩の御用荷物である大豆などの輸送が増え、村々の伝馬継

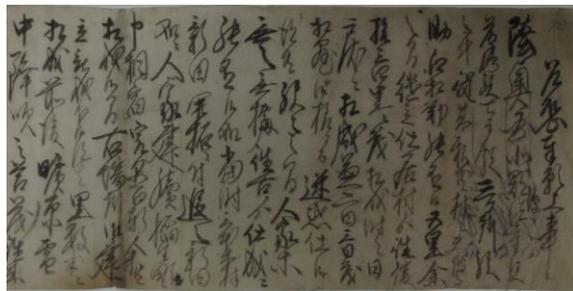


伝馬票(松前志摩守御内室通行) (畑山家文書)



伝馬票(三戸御定例大豆ほか付下げ) (畑山家文書)

立の負担は大変過重なものとなっていきます。明治 2 (1869) 年の「三本木駅新設願」は、稲生町への新駅建設を願い出たもので、夫伝馬に対する村々の考え方がみてとれます。このコーナーでは、切田村で肝入をつとめた畑山家の古文書を中心に紹介していきます。

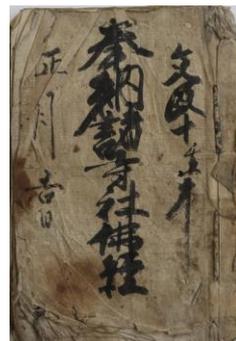


三本木駅新設願(畑山家文書)

⑤ 旅の流行

江戸時代になると、庶民の生活も向上し、遠隔地に出かけるゆとりが出てきます。庶民が旅に出るには、所属する檀家寺（だんかでら）を通して許可をもらう必要があるなど様々な制約がありましたが、時代が進むにつれて寺社参詣や名所めぐりの旅などがさかんになっていきます。板ノ沢集落に残された廻国奉納経帳は 10 年間で全国 200 カ所以上の寺社を巡った修行者のいわば御朱印帳で、旅の貴重な記録となっています。

旅行者が増えるにつれ、実際の旅行に役立つ旅行の手引書のようなものが作られました。「道中記」などと呼ばれ、旅路の宿駅、距離、駄賃などが記載されました。絵を中心としたものもつくられています。



廻国奉納経帳



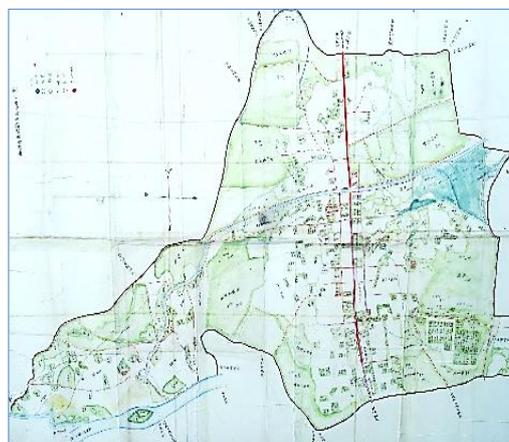
廻国塔(板ノ沢)



御領内鬼柳より田名部迄道中絵図

⑥ その後の奥州街道

明治時代になると、青森県が中心となり街道の近代化に着手します。明治 9 (1876) 年には、天皇陛下のご巡幸があり、悪路の多かった当地方では各所で改修工事がおこなわれました。奥入瀬川でも御幸橋の架橋工事がおこなわれています。明治 18 (1885) 年には奥州街道をほぼ引き継ぐ形で国道 6 号として指定され、大正 9 (1920) 年には国道 4 号となりました。昭和時代の後半からは、自動車の通行に対応した舗装化、バイパス化が進み、現在に至ります。



青森県陸奥国上北郡三本木村図